

特別支援教育研究委員会

1 研究テーマ

一人一人の生活を豊かにし、自立する力を育てる支援のあり方

～特別支援学級における個別の指導計画を生かした生活づくり

・授業づくりはどうあったらよいか～

2 研究内容

特別支援教育委員会では、これまで「自立する力」に焦点をあてて研究を深めてきている。委員会として「自立する力」を育むための構想図を作成して大切に育てていきたいポイントを確認し、個別の指導計画の見直し・修正を重ねていく方向こそが、郡全体のテーマである確かな学力を育む方向につながるものと確認してきている。特別支援教育に関しては、制度改革が急速に進み、障害の多様化への対応や、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒への支援など課題は多く、各学校の実践を情報交換することも大切にしてきた。

今年度は郡研の運営が委員会主体になったことを受け、自分たちの実践の足元を見直す研究にしたいと考え、特別支援学級の授業を中心に研究を深めることとした。その中でも、知的障害児の教育で大切にされてきた生活単元学習に焦点をあてた実践研究に取り組んできた。

生活単元学習を進めるにあたって、今年度は以下の3点を特に大切に考え実践してきた。

- ① 個別の指導計画の見直し・修正を重ね、個々のねらいを明確にした学習を大切に
- ② 子どものねがいを大切にし、繰り返しが多く・発展性のある単元展開を工夫する
- ③ できる状況づくりに徹し、主体的に精いっぱい力を発揮し、満足感が得られる学習に

公開研究授業は、以下のように実施した。

期 日 平成 20 年 11 月 19 日 (水)

単 元 名 江戸時代ハウス喫茶「お客さんに喜んでもらえる喫茶店」

～須坂市の先生達に来てもらって、マスターの修行をしよう～

授業学級 須坂市立井上小学校 梅組 4名 (男子2名・女子2名)

授 業 者 湯本 明美 教諭

指 導 者 須坂市立相森中学校長 高橋 英一 先生

3 研究の成果

(1) 指導の実際

① 個別の指導計画、個別の教育支援計画の見直し・修正

単元の学習を進めるにあたって、まず個別の指導計画の見直しを重ねた。対象児Tさんは、これまで苦手としていた他人の評価を受け入れる力が伸びてきている点や、活動への目当てを持ちカードに記入したりロールプレイしたりすることで、意識を持続できそうであること等を確認し、支援の方向が具体的になってきた。

② 単元展開の工夫の実際

本単元成立のきっかけは、昨年度の2学期に担任の家の新築工事を見学したことであった。古民家を再生する家を見て「江戸時代ハウス」と名付け、そこで自分の喫茶店を開きたいというねがいが生まれた。そして、校内での販売活動や実際の喫茶店の見学を通して、目当てがより明確に位置づいた。さらに、喫茶店のマスターになるための修行と本人が位置づけ、毎週木曜日にランチを作る活動を継続してきた。そこでは、自分で計画を立て、調理し、試食してお客様アンケートを記入してもらい、新たな目標を決める学習を繰り返した。8月、実際に江戸時代ハウスで飲み物を提供

する活動ができ、12月の正式な開店を目指して何度か梅組で喫茶店を開く計画を立てた。10月、桐里っ子の日に保護者の方々に喫茶店を開いた時に来店してもらった須坂の先生方から頂いたアドバイスをもとに、全体や個人の目当てを確認して本時を迎えた。

③ 本時の姿から

本時のねがいは、「お客さんに喜んでもらえる喫茶店にしたい」という願いをもって喫茶修行をしてきた子どもたちが「お客様アンケート」でアドバイスをしてくれた須坂の先生方にきてもらって喫茶店を行う場面で、共通の目当てをロールプレイで確認する、自分の言葉や絵で書いた「目当て達成の方法カード」を見るなどをすることを通して、最後のお客さんまで自分の目当てを意識したサービスをすることができる。であった。本時は、全員の先生方に飲み物とマフィンを提供したいという児童のねがいから、60分の授業にした。授業のはじめに全員で確認したとおりに、最後まで、明るく、丁寧な言葉遣いや品物の出し方に気をつけて接客する姿は、全員のねがいがしっかりと意識づいており、これまでの積み重ねで身につけてきた力を感じた。特に、対象児のTさんは、すべてを完売したいというみんなのねがいの実現のために値下げして呼びかけたり、お客さんからの問いかけに対して臨機応変に対応したりすることができており、マスターとしての仕事をやり遂げたいという強い気持ちで、これまで苦手だった変化を受け入れ、最後まで意識を持ち続ける成長した姿につながったと思われる。お客さんが多く、子どもたちが充実感を持って終えられるためには時間が適切であったか、品物を提供する順番が間違ってしまう等できる状況づくりに課題は残ったが、反省会の場面では、どの子もねがいを達成できた満足そうな表情で感想を述べていた。



▲丁寧な言葉で注文を受けるTさん

(2) この事例から明らかになったこと

今年度大切に考えてきた3点に沿って以下の成果が確認できた。

- ① 個別の指導計画を何度も見直すことで、今伸びようとしている力は何か、どんな支援が有効なのかを探ることができ、単元展開の工夫や授業改善につながった。
- ② 本人のねがいにもとづいた喫茶店に関わる学習を中核に据え、年間を通して大きな単元を展開し、さらに毎週ランチ作りを繰り返し、自ら計画を修正していったことで、見通しを明確に持ち、繰り返しが多く、発展性のある単元展開ができた。
- ③ 自分の言葉や絵で書いた計画書を作成しロールプレイしてみる、レジや調理の方法を明確にして教師は必要な時のみさりげなく関わる対応をする等、できる状況づくりが整っていたので、自分の役割や注意点を自覚して、最後まで喫茶店のマスターとしての役割を果たし、満足感をもって授業を終えることができた。

4 来年度への課題

来年度も基本的にはサブテーマの方向は継続し、特別支援学級における生活単元学習について研究を深めていきたい。その際に、以下の2点について、さらに検討していきたい。

- ・より確かな学びにつながる評価のあり方、評価を生かした授業改善の方向を明らかに。
- ・できる状況づくりの工夫をさらにすすめ、どの子も、主体的に精いっぱい力を発揮し、満足感が得られる学習にしていきたい。